

300号記念天文人生の思い出：ブラッドフィールド氏訪問

2018年1月8日 大杉直樹

1. はじめに

今からもう30年近く昔になりますが、いこいの村大和高原で開催された第20回彗星会議(1990年3月)でのブラッドフィールド氏の講演を、昨日のことに覚えておられる方は多いはずです。

ブラッドフィールド氏が来日される直前に、アデレード郊外にあるご自宅を訪問し、機材 掃天方法 星空について、お話をお伺いすることができました。この貴重な体験をご紹介します。

2. 訪問

大学卒業を控えた春休みを利用し、南天の星空を求めて、オーストラリア大陸のアウトバックをさまよった後、道中に手に入れた地図と住所を手がかりに、ブラッドフィールド氏ご自宅に辿り着きました。

訪れた私を歓迎して頂き、ニュージーランド出身で、ウーメラ試験場で、ロケット打上げの仕事に従事していたことなど紹介されました。

3. 2台の彗星掃天用望遠鏡

広いご自宅の庭で、2台の掃天用望遠鏡を組み上げて頂きました。以前使用していた25cm反射と、現在使用している15cm屈折の2台で、ともに自作です。

1) 15cm屈折望遠鏡 写真1

現在、掃天に使用されている望遠鏡で、中古で手にいれたカメラ用のレンズを使用しており、25cm反射よりコントラストが良く、低空の掃天に最適との説明がありました。高さが調整でき、上下は手動、水平はモーターで駆動できるようになっています。

接眼レンズは、確か、エルフレ32mmを使用されていたと記憶しています。



写真1 15cm屈折経緯台

2) 25cm反射望遠鏡 写真2

配管を利用して作られた赤道機?に乗っています。赤経軸は、モーターで駆動できるようになっています。



写真2 25cm反射赤道機

4. ブラッドフィールド氏の見た星空

「彗星掃天の邪魔になるには、黄道光 金星である。また、夜露が着くような夜は、星の光が弱められてしまう為、掃天には適さない。」と、説明されました。

訪問前にアウトバックで眺めた星空を見てきた私にとって、共感を覚える内容でした。

360度見渡す限りの平原で、地平線まで真っ暗な光害が全くないこの地は、目に見える明かりは星明りなどの自然光のみであり、日本では到底得られないすばらしい星空であったことを鮮明に記憶しています。

5. 最後に

ブラッドフィールド氏との記念写真は、私の宝物です。もう一度訪問したいと思っていたら、30年近くが経っていました。この場をお借りし、歓迎頂いたブラッドフィールド氏に、深く御礼申し上げます。



写真3 ブラッドフィールド氏と私